

2020年度 草津市聴覚障害者全数調査

災害時のコミュニケーションのありかたを 考えるためのアンケート

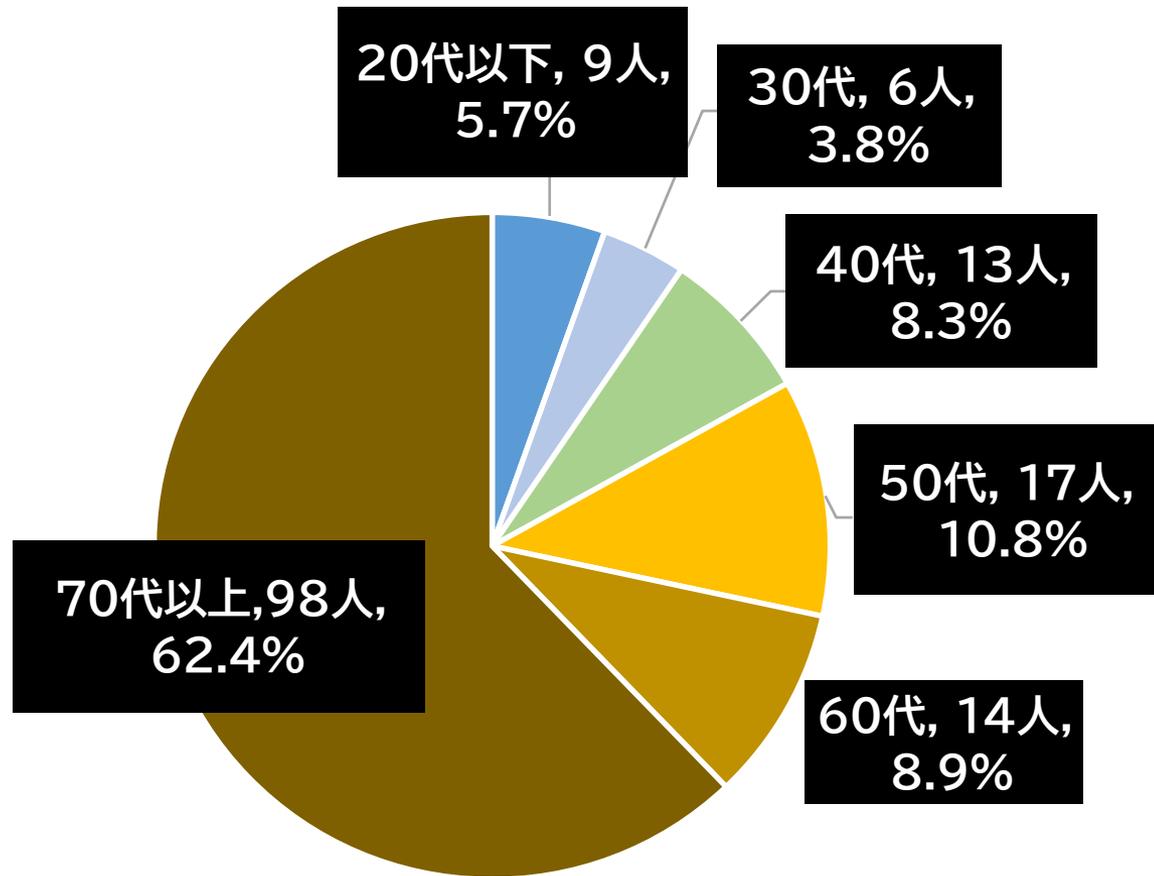
草津市障害福祉課

関西大学社会安全学部近藤誠司研究室

328名に配布 157名から回答

回収率 47.9%

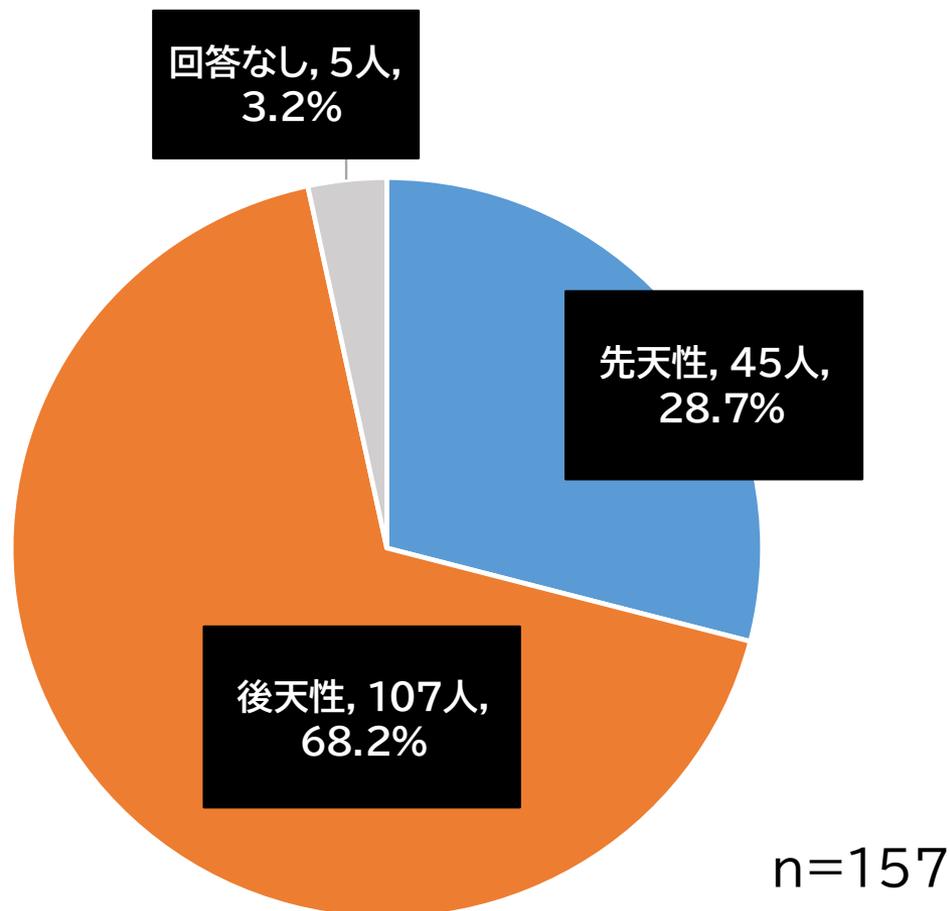
回答者の年齢



n=157

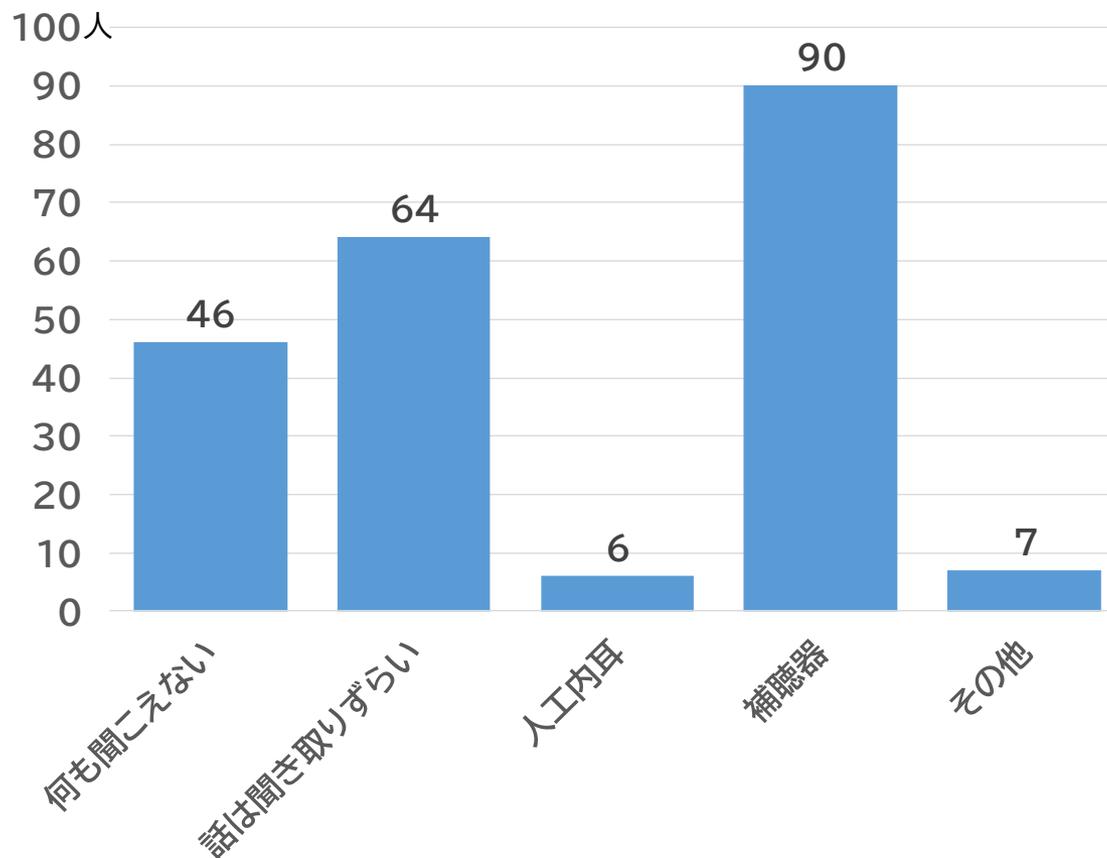
60代以上の高齢者の割合が7割を超える

聴覚障害について



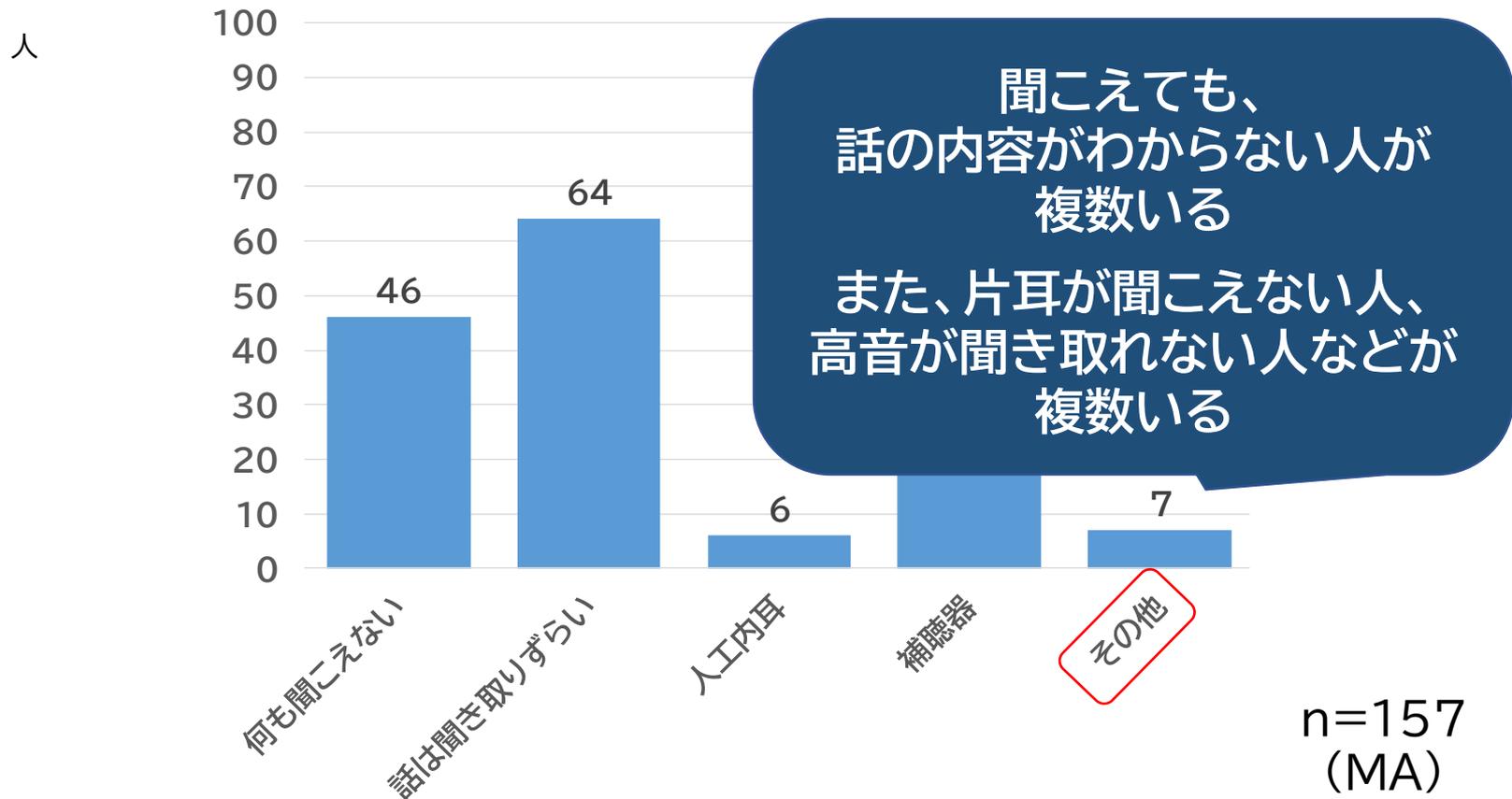
後天性の人が全体の7割近くを占める

障害の程度について



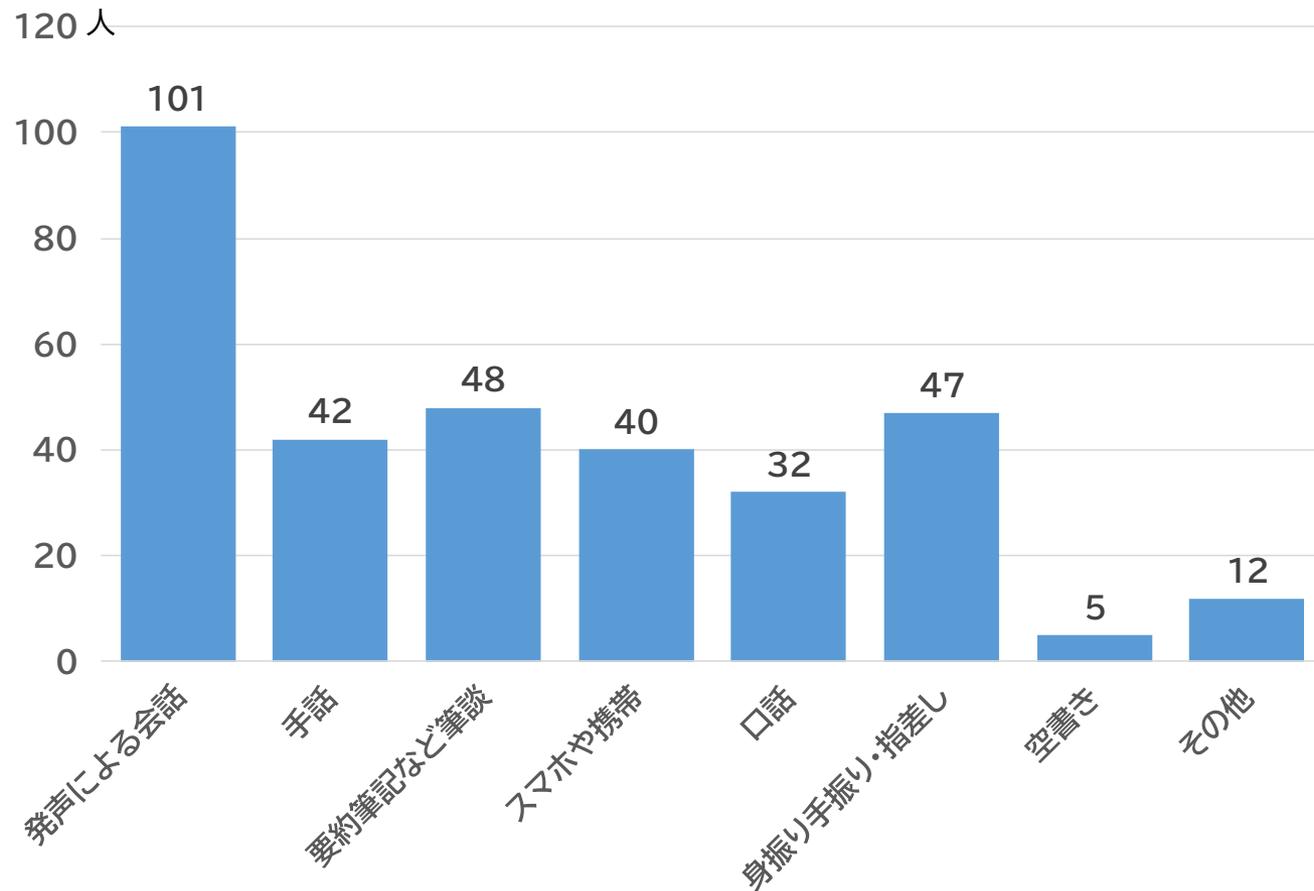
失聴者は46名(29.3%)
補聴器の使用者は90名(57.3%)

障害の程度について（「その他」の内容）



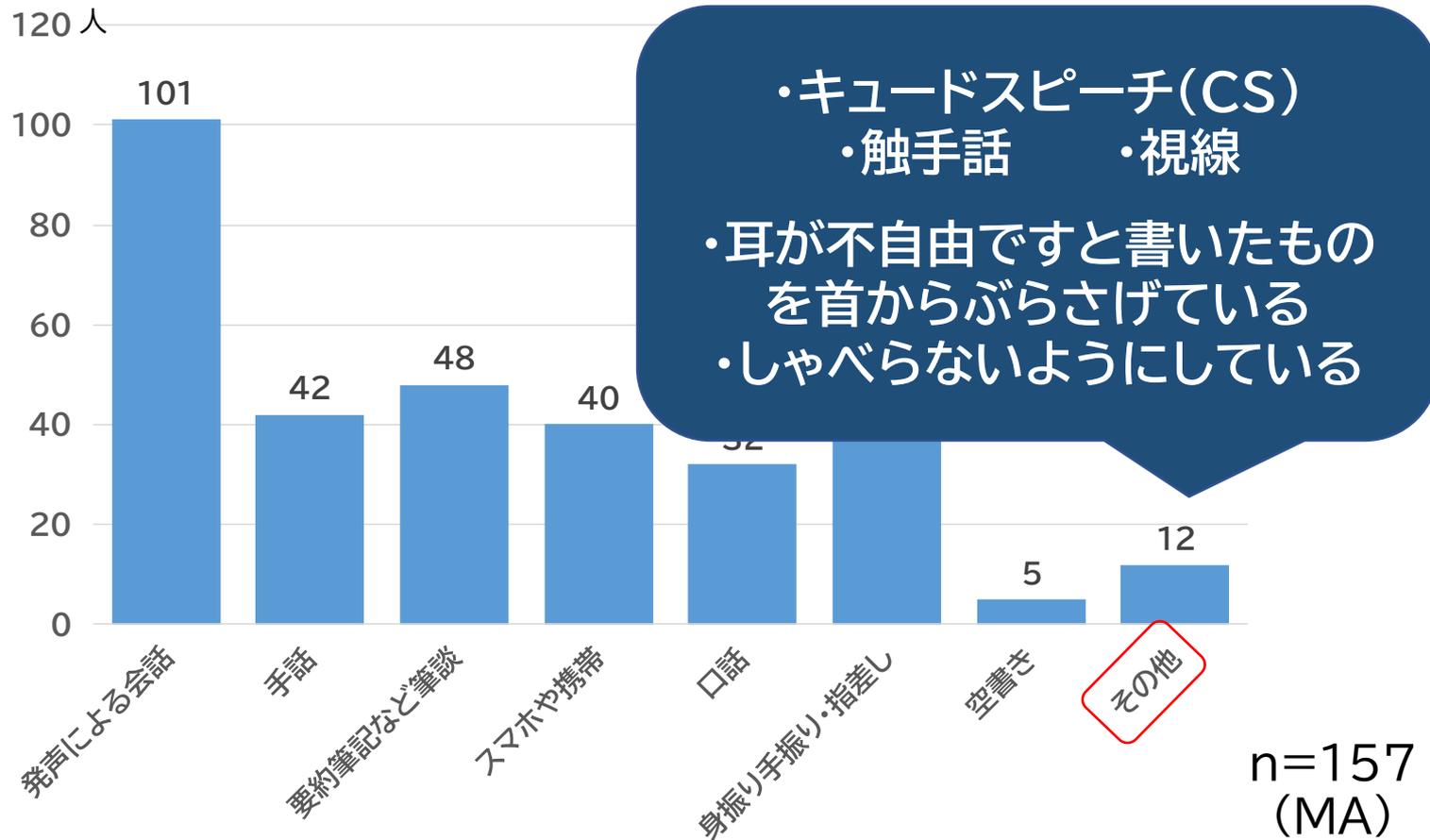
失聴者は46名(29.3%)
補聴器の使用者は90名(57.3%)

普段の「伝え方」



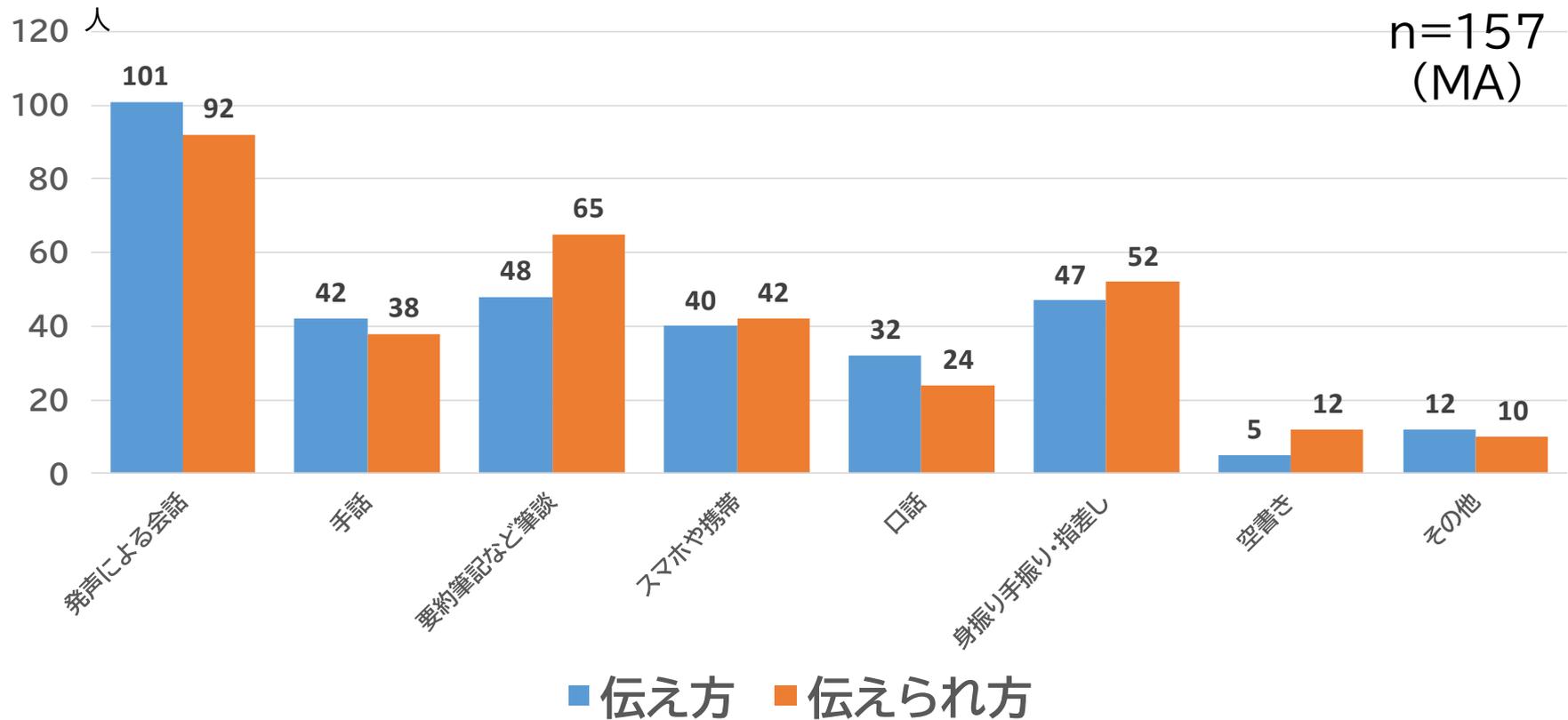
発声している人が101名(68.2%)

普段の「伝え方」(「その他」の内容)



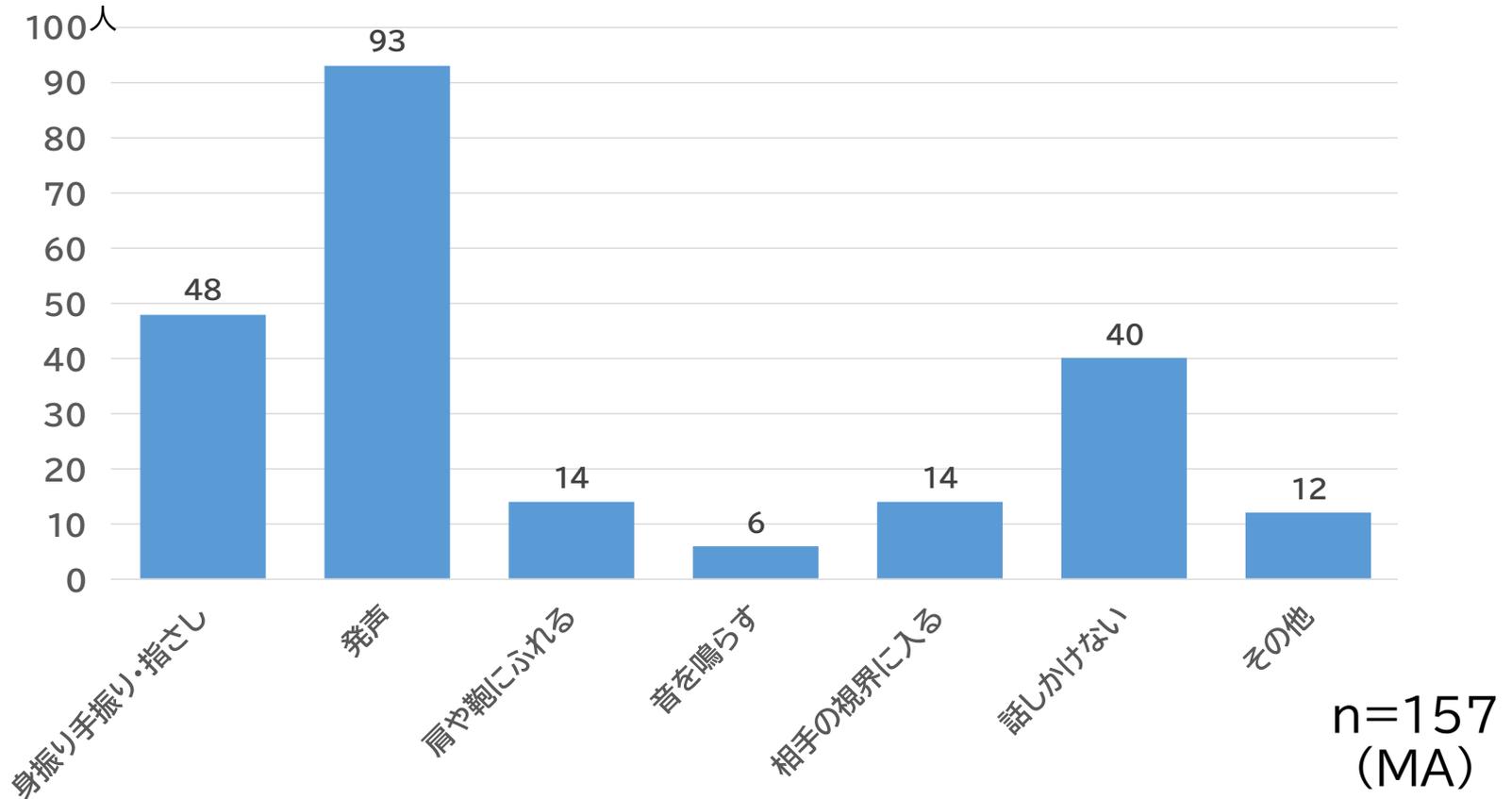
発声している人が101名(68.2%)

普段の「伝え方」・「伝えられ方」



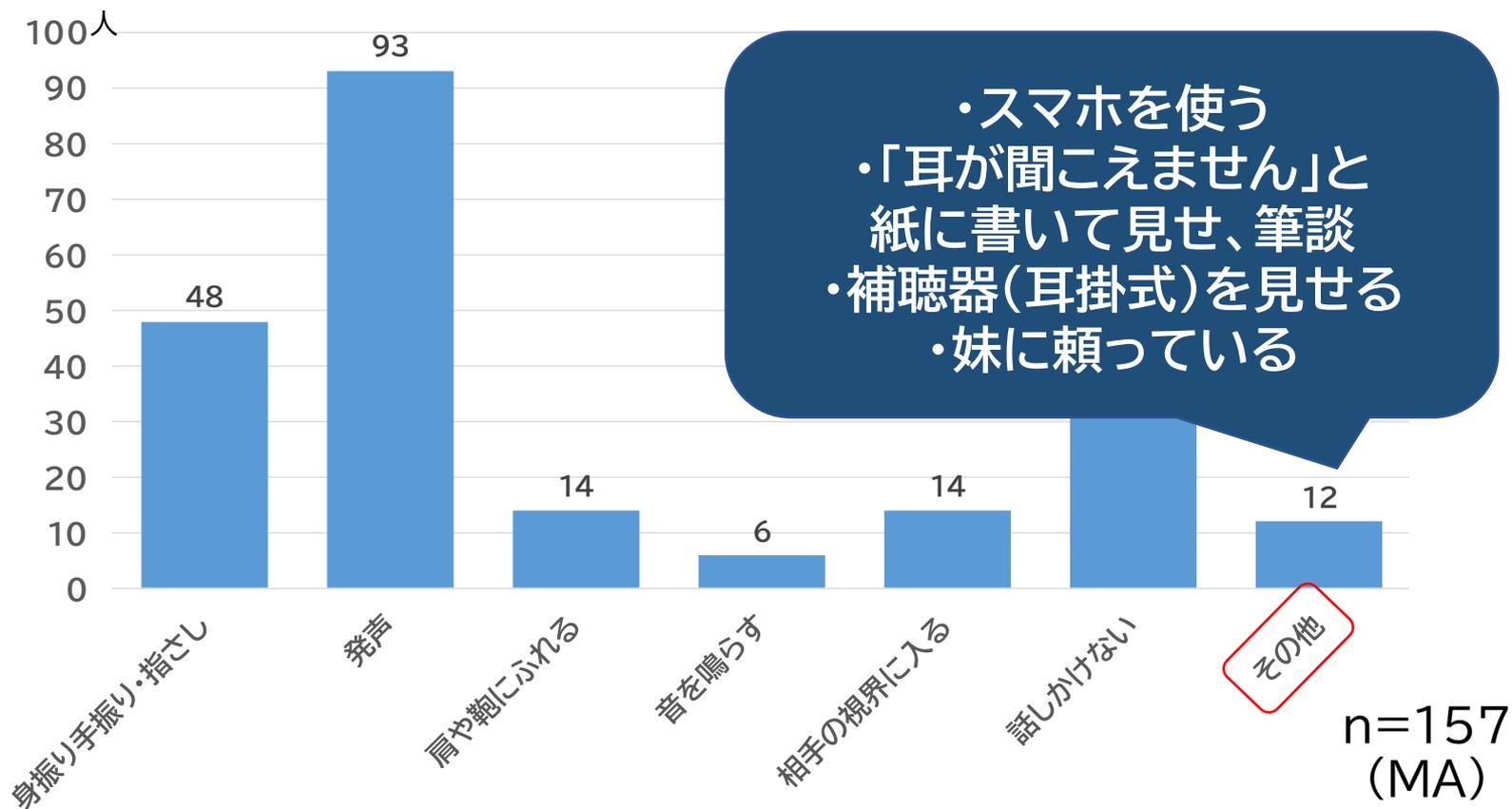
手話よりも、発声・筆談のほうが多い

道端で「知らない人」に伝えるには



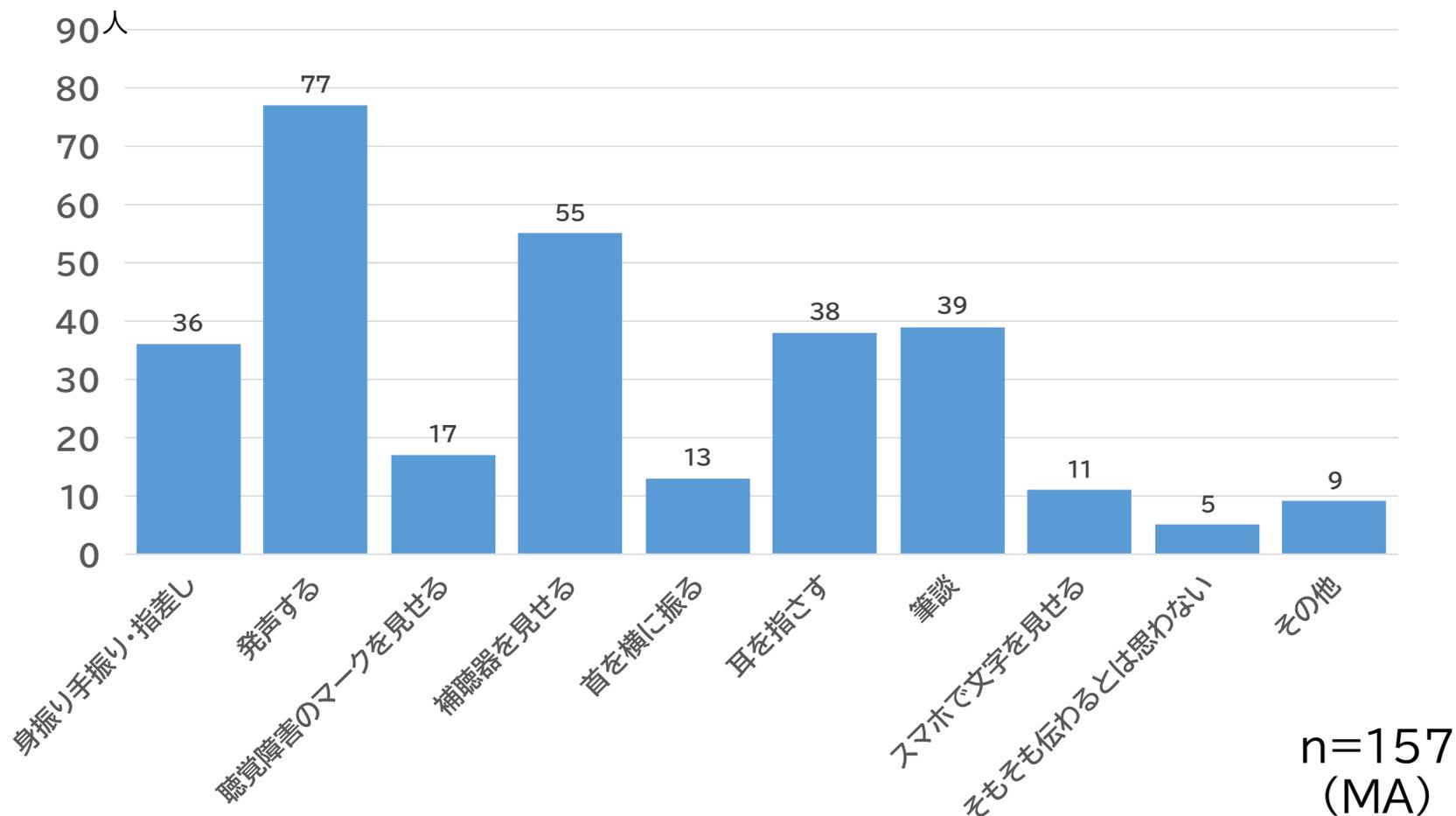
**「発声」が、93名(62.8%)
コロナ禍での苦境が予想される**

道端で「知らない人」に伝えるには（「その他」の内容）



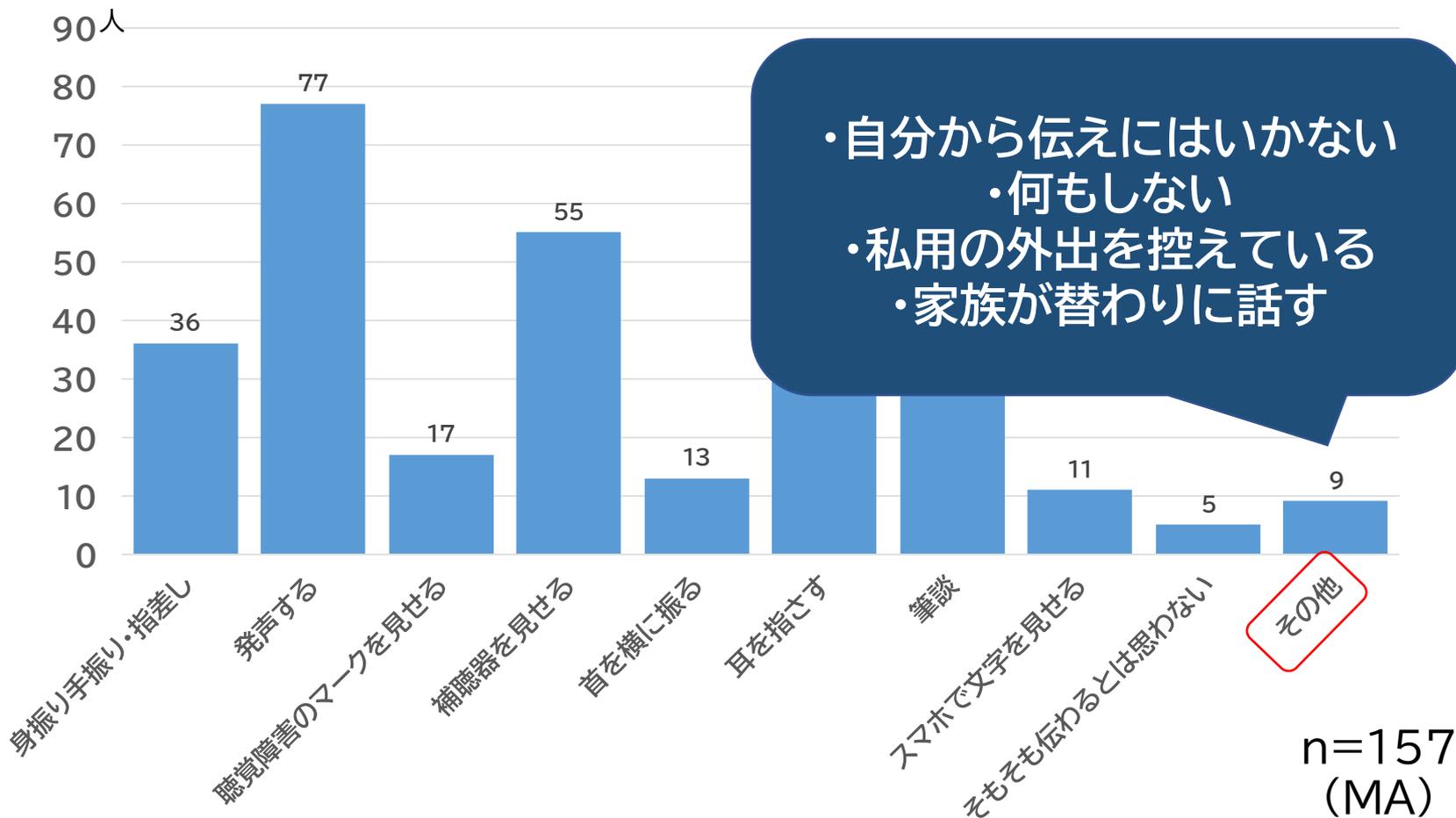
「発声」が、93名(62.8%)
コロナ禍での苦境が予想される

知らない人に自分が聴覚障害だと伝えるとき



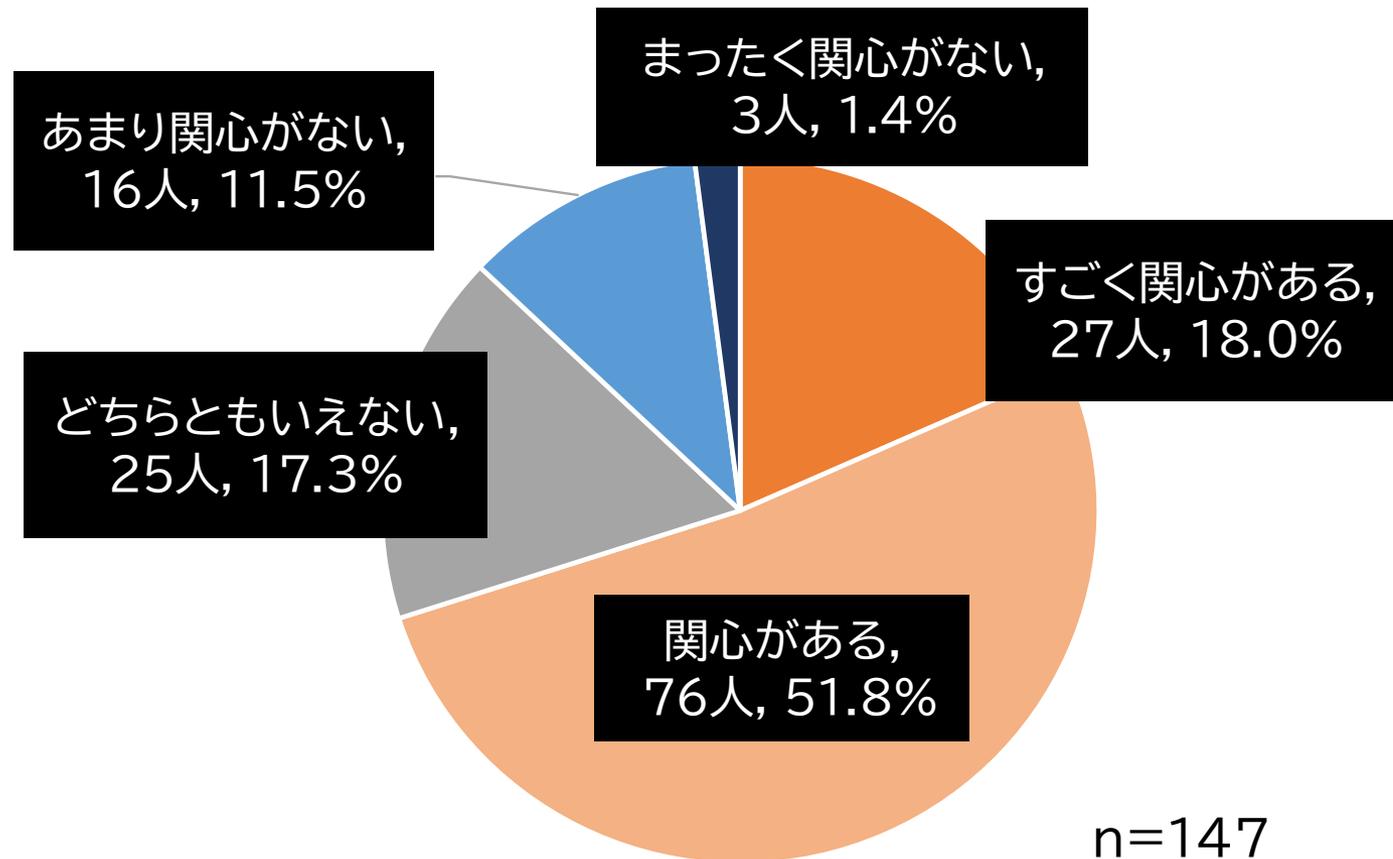
発声が77名(49.0%)、補聴器を見せるが55名(35.0%)

知らない人に自分が聴覚障害だと伝えるとき（「その他」の内容）



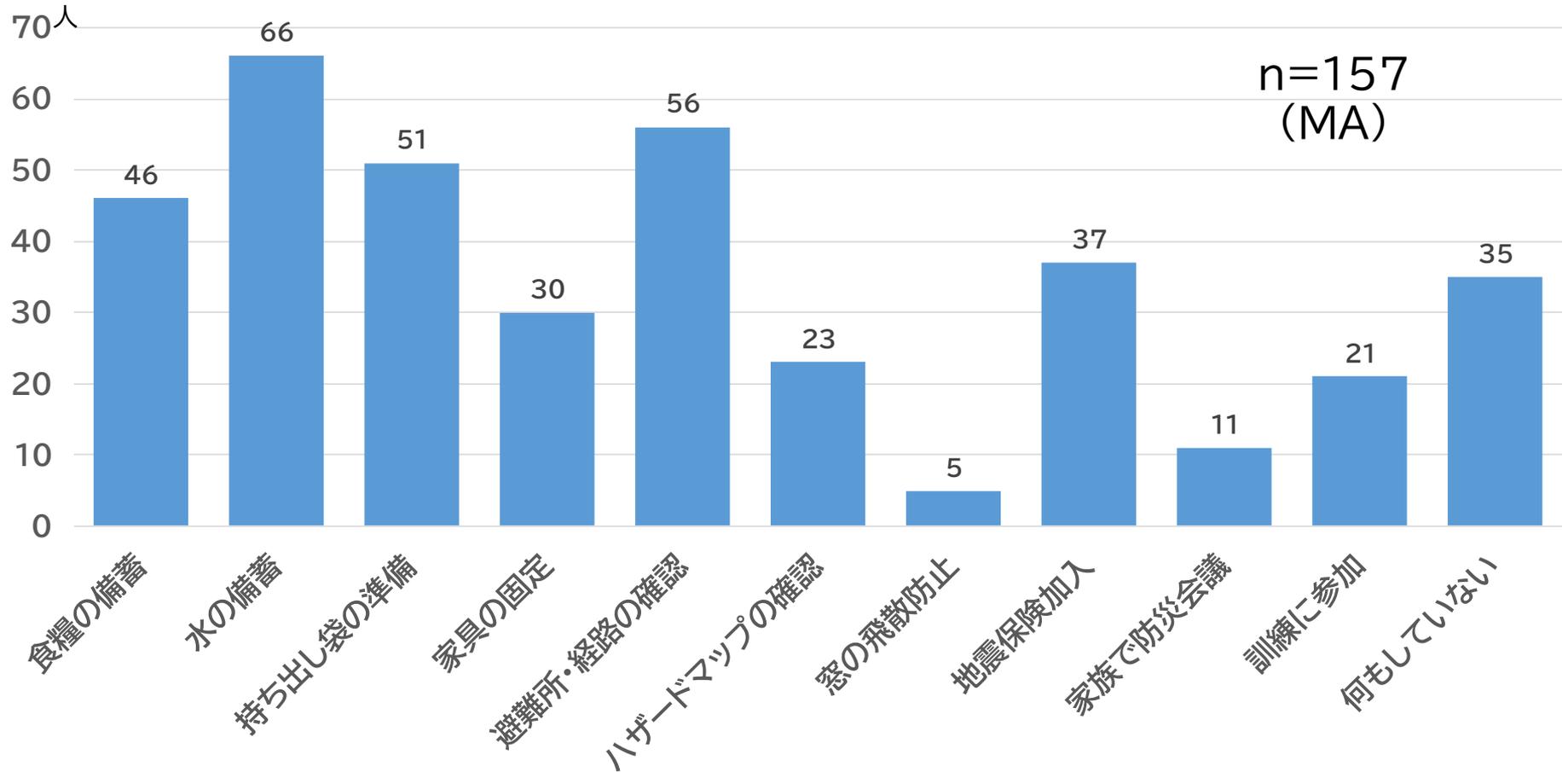
発声が77名(49.0%)、補聴器を見せるが55名(35.0%)

防災関心度について



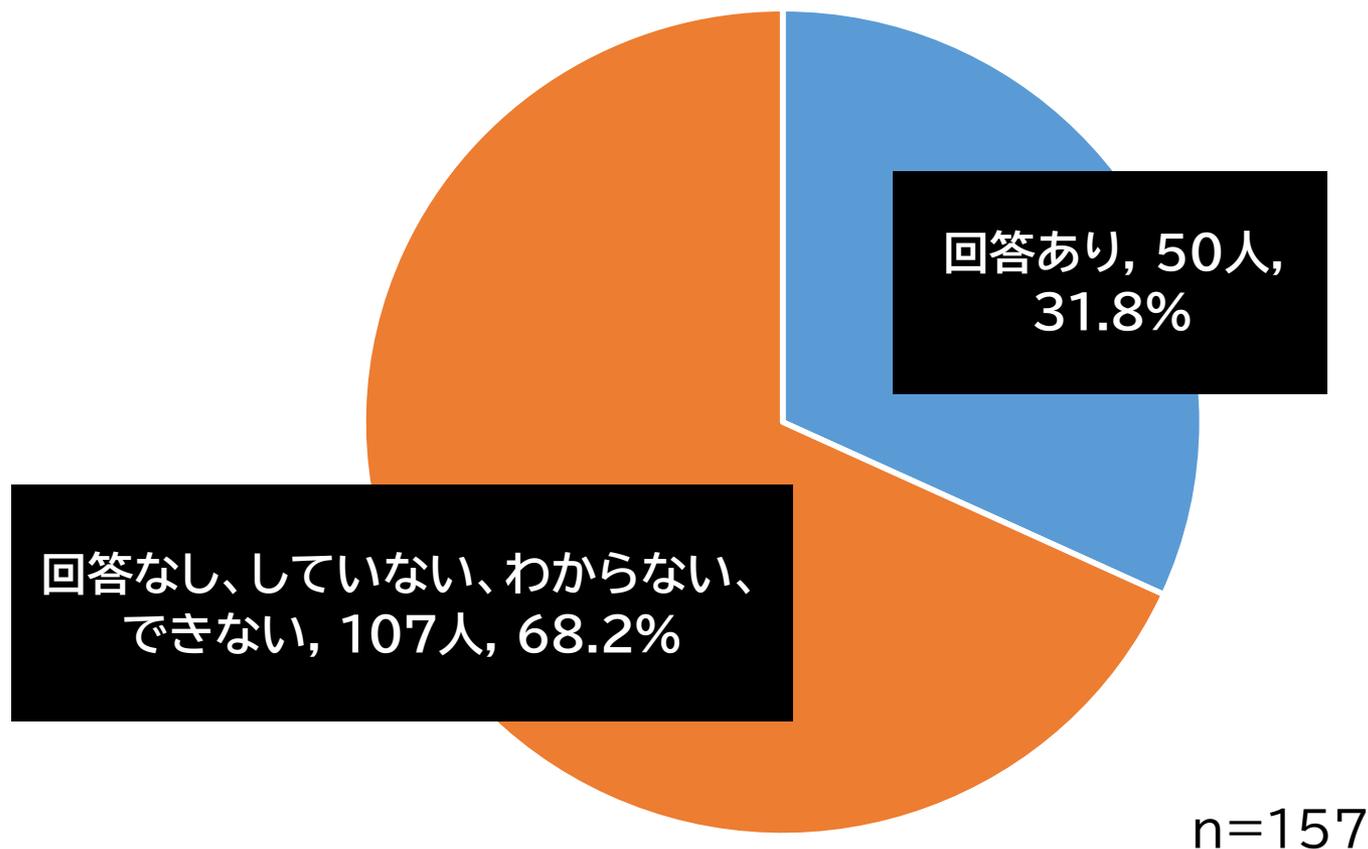
7割の人が防災に関心あり

備えの充実度(確実にしていること)



2割の人が「何もしていない」

聴覚障害者として特別に備えていること



約7割の人が「特別な備え」をしていない

聴覚障害者として特別に備えていること

自由記述

- 補聴器の予備電池を準備しておく
- 補聴器の予備を数台持っている
- 補聴器やスマホをすぐに手に取れる場所に置く
- 帽子の準備(補聴器を落とさないようにするため)
- バッグの中に人工内耳機器を入れて持ち歩いている

- ノートと鉛筆など筆談用具の準備、非常用持ち出し袋にも入れておく
- 大切なものは枕元において寝ている(障害者手帳・通帳・印鑑等)
- FAXとメールを使えるようにしておく
- スマホに防災情報のアプリをダウンロードしている

- 近所づきあい、聴覚障害者であることを知っておいてもらう
- 民生委員さん・町内会長さんに自分のことを伝えてある
- 要援護者リストに登録してある
- 避難経路の確認

- 他のかたの準備の中身を知りたい、ぜひ参考にしたい！

市民に知っておいてほしいことやアイデア

自由記述

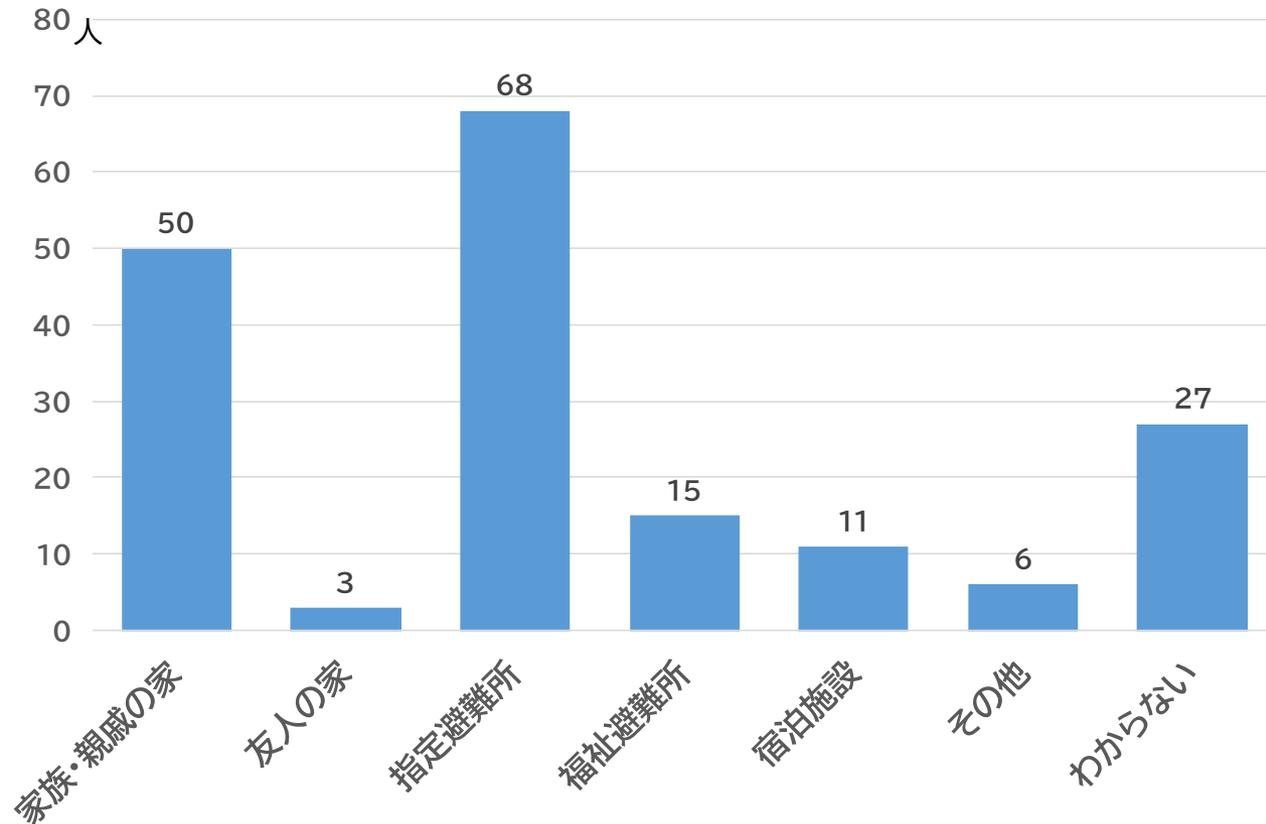
- 聴覚障害者ワッペン、耳マークのバッジ、スカーフなど
- 筆談ボード、掲示・表示の工夫、スマホ・FAXの活用、手話通訳も必要
- 避難所のテレビでは字幕表示をお願いします
- ポケットクミミ(AI筆談機など)の活用、
- おたすけカードやメモ書きを使ってはどうか
- サポートできる人は、それがわかるように避難所でベストを着用
- 文章は短文でわかりやすく、大きな文字で表示を
- 簡単な会話は手話でおこないたい

- 場内アナウンス・サイレン・チャイム・デジタル音は聞こえない
- 後ろから話しかけられてもわからない
- マスクを付けている状態では聞き取りにくい
- 生活音で迷惑をおかけしてしまうかもしれません

- 普段から、聴覚障害について理解を深めてほしい
- 普通に接してくれたらそれでよい、特別扱いはしないでほしい
- やさしさと励ましがほしい

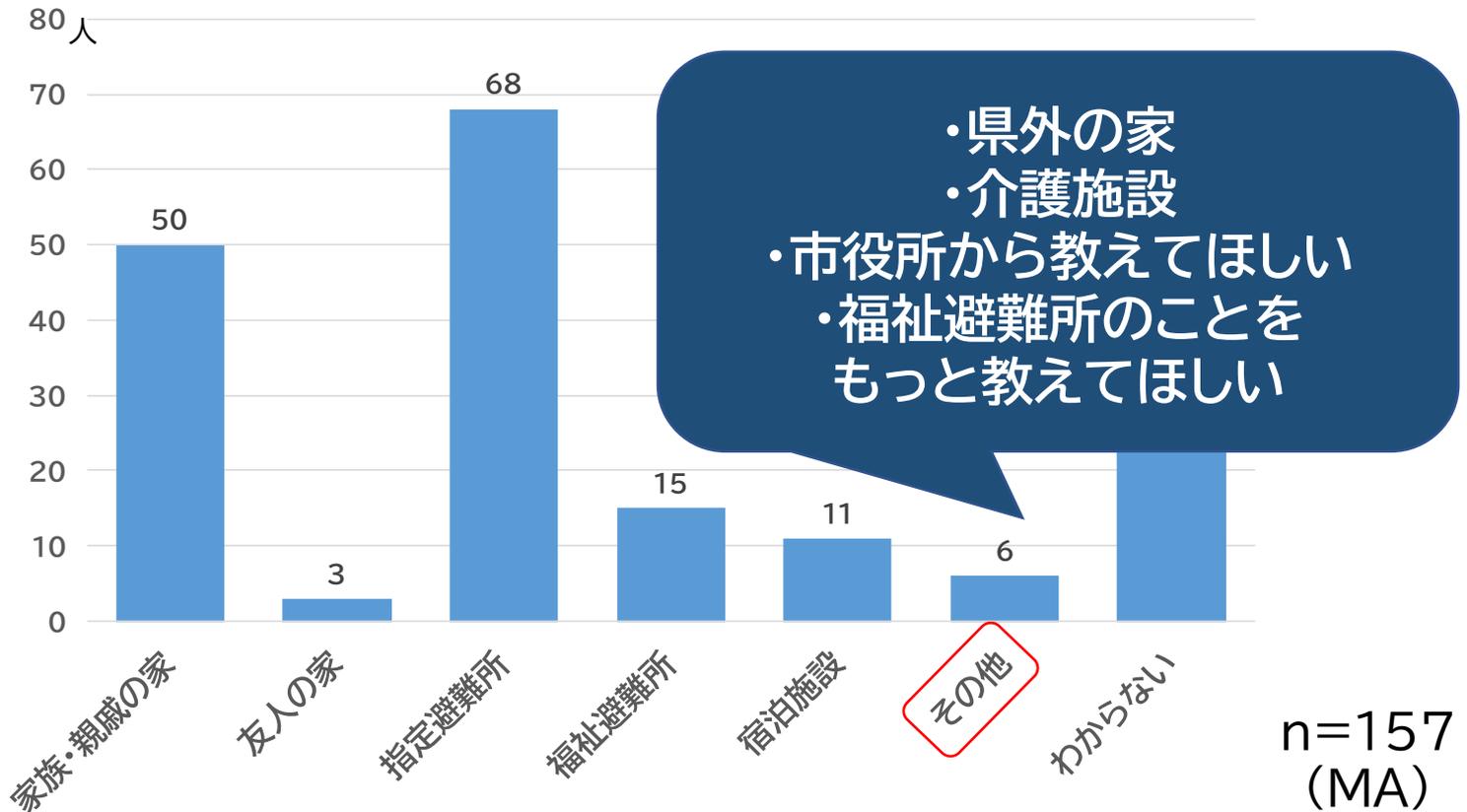
- 高齢者ゆえ、運に任せています、災害時のことまで頭がまわらない
- 自分のことは自分でするようにします、自分のことで精いっぱいです
- 相手が困っているならば、逆に助けてあげられるようにしたい

避難先の候補



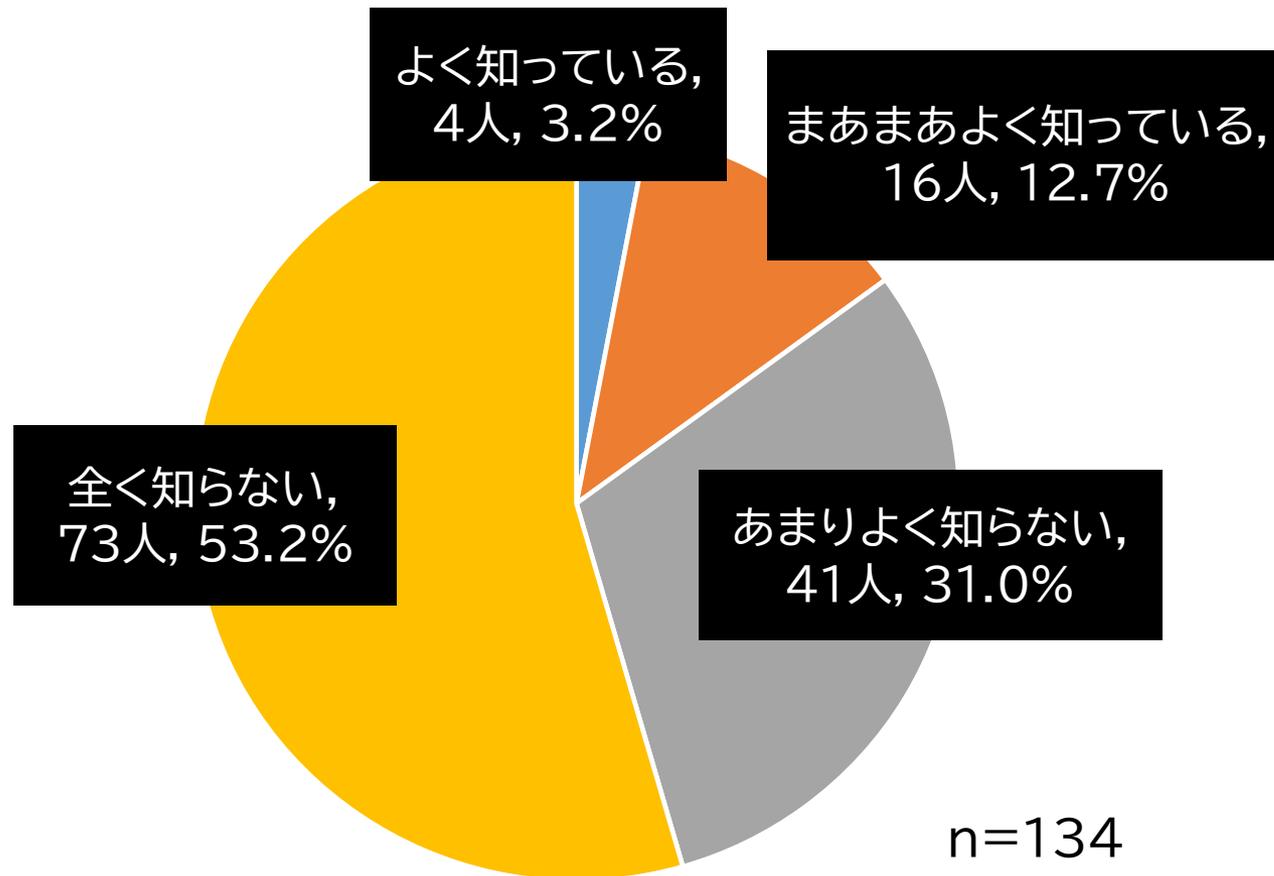
指定避難所=43.3% 福祉避難所=9.6%
17.2%の人が「わからない」

避難先の候補（「その他」の内容）



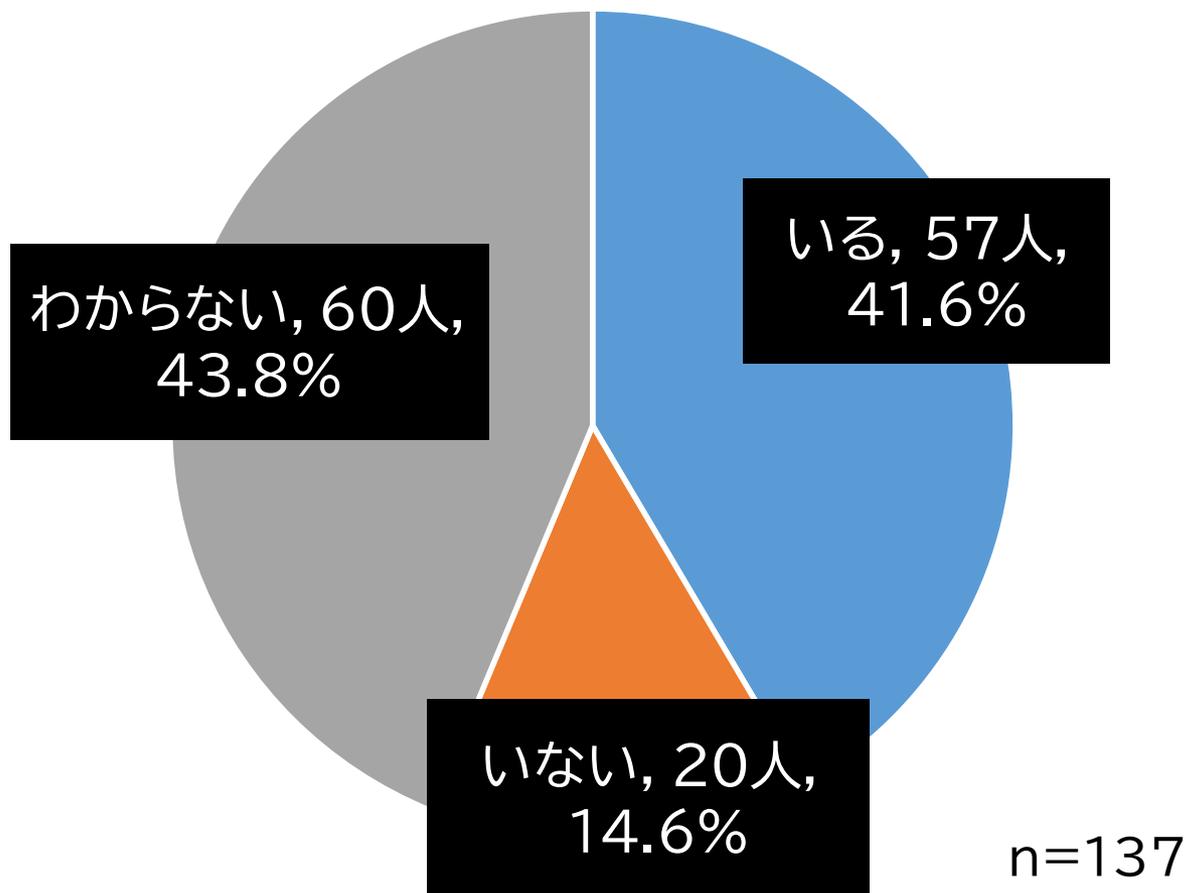
指定避難所=43.3% 福祉避難所=9.6%
17.2%の人が「わからない」

福祉避難所について



過半数が「全く知らない」

ライフライン途絶時の支援者



「(支援者が)いる」の回答は4割程度

ライフライン途絶時の支援者(具体例)

(別居の)
家族・親戚

近所の人

友人

ボランティア

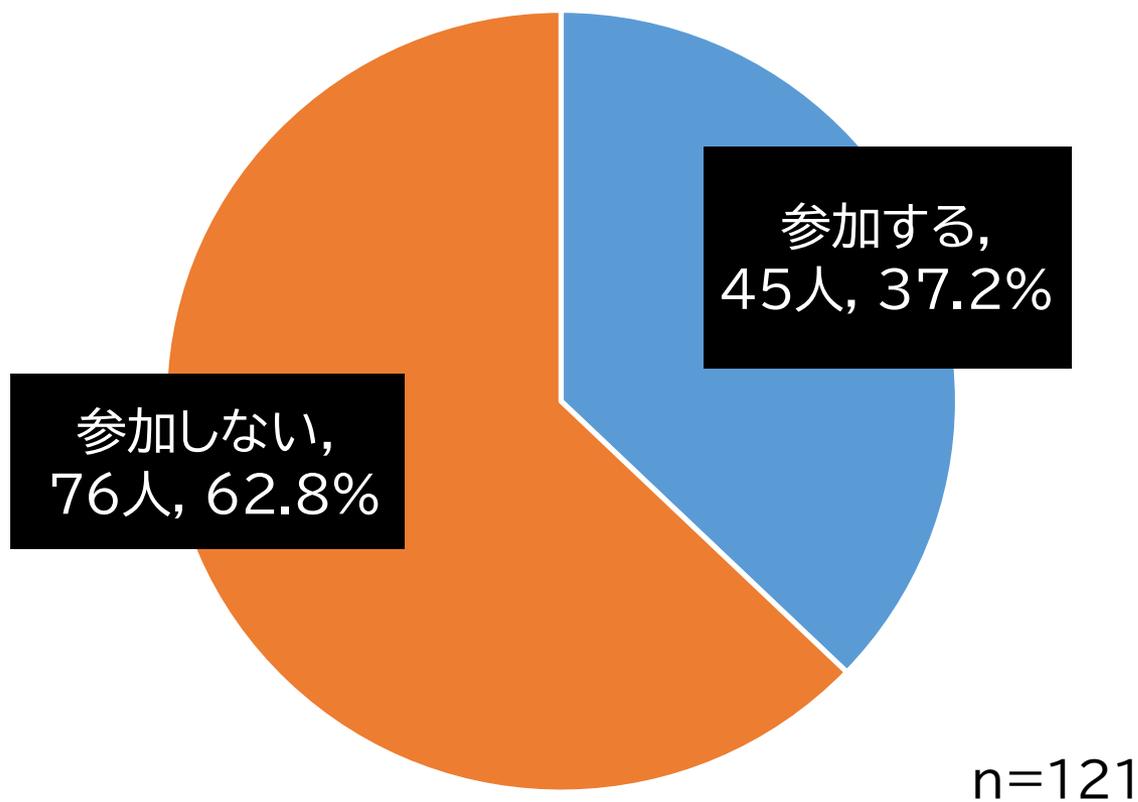
民生委員

ケアマネ

「頼らないように
しています」

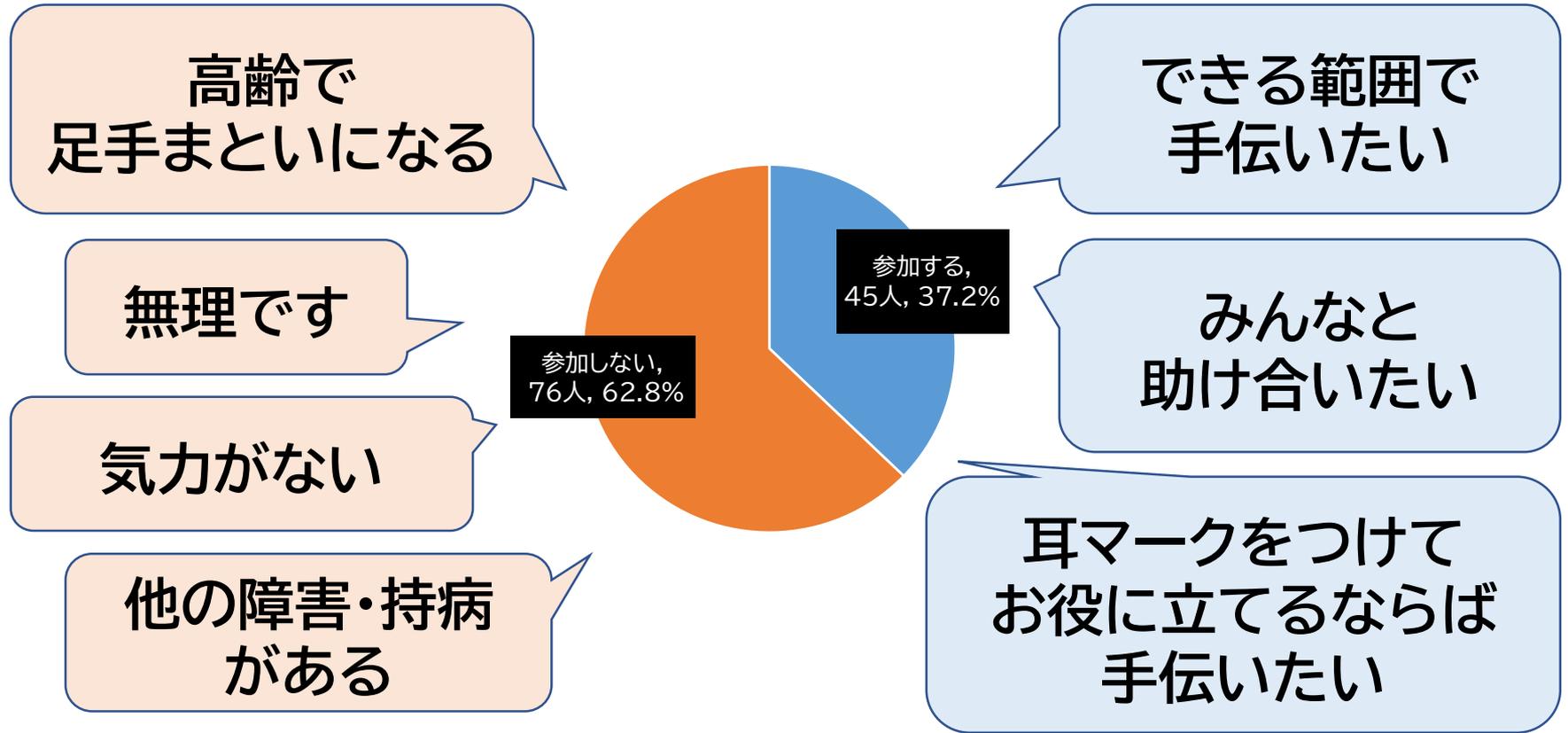
「まわりはみんな
使えない」

避難所運営に参加するか



「参加する」の回答は4割程度
回答率が77.1%に留まる→ 悩ましい問いだったか

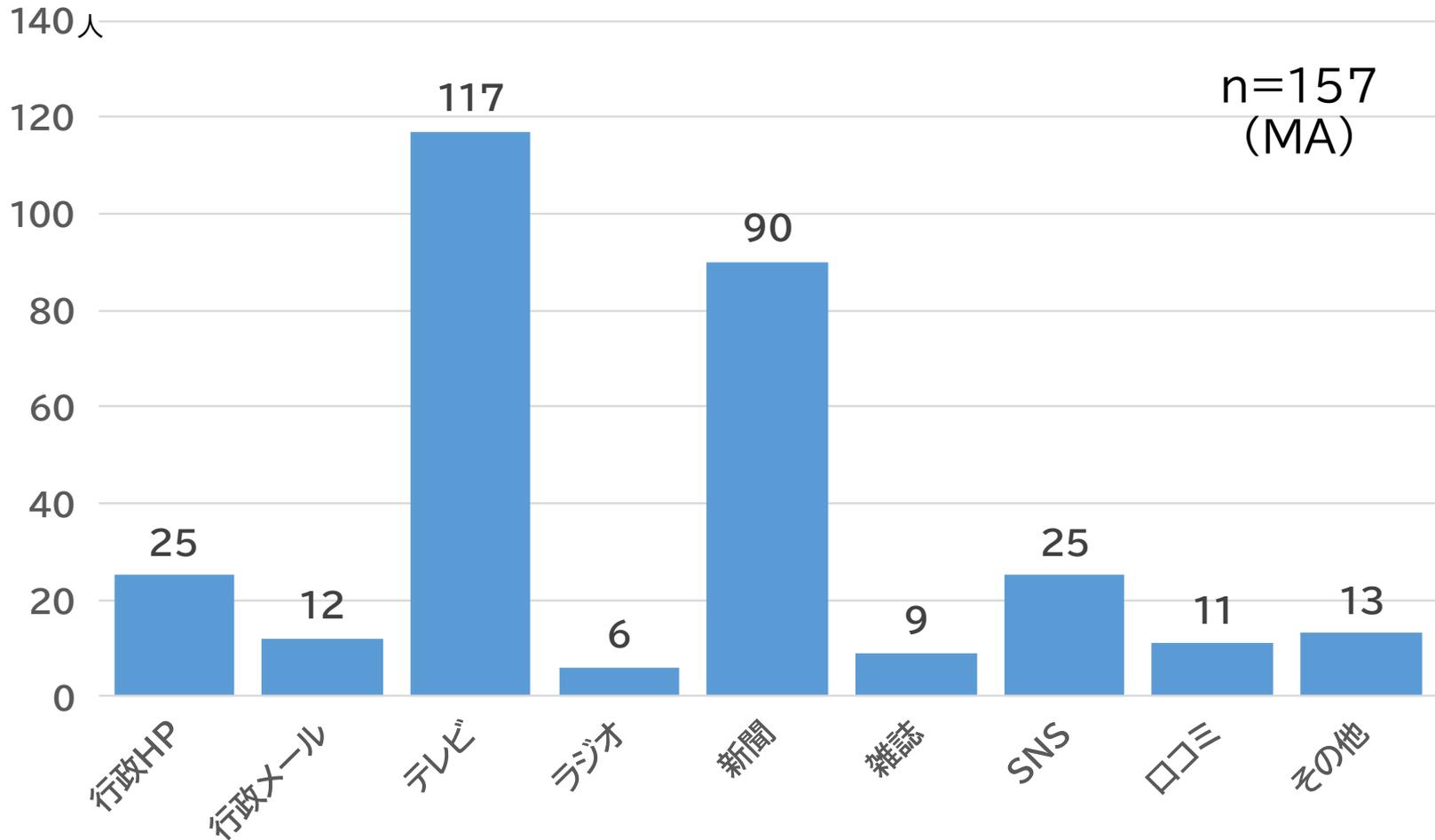
避難所運営に参加するか



「参加する」の回答は4割程度

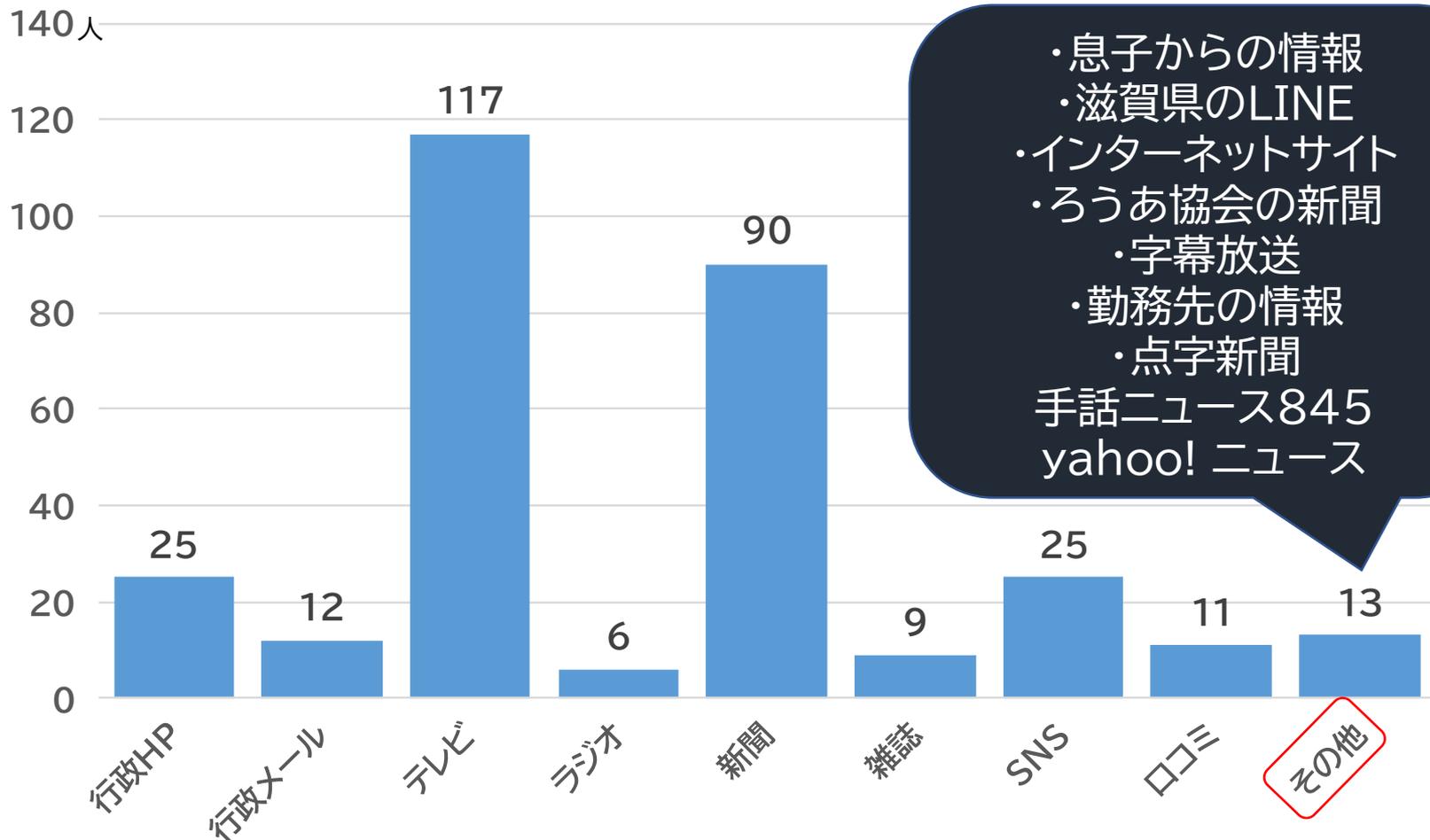
回答率が77.7%に留まる→ 悩ましい問いだったか

コロナ禍の情報源



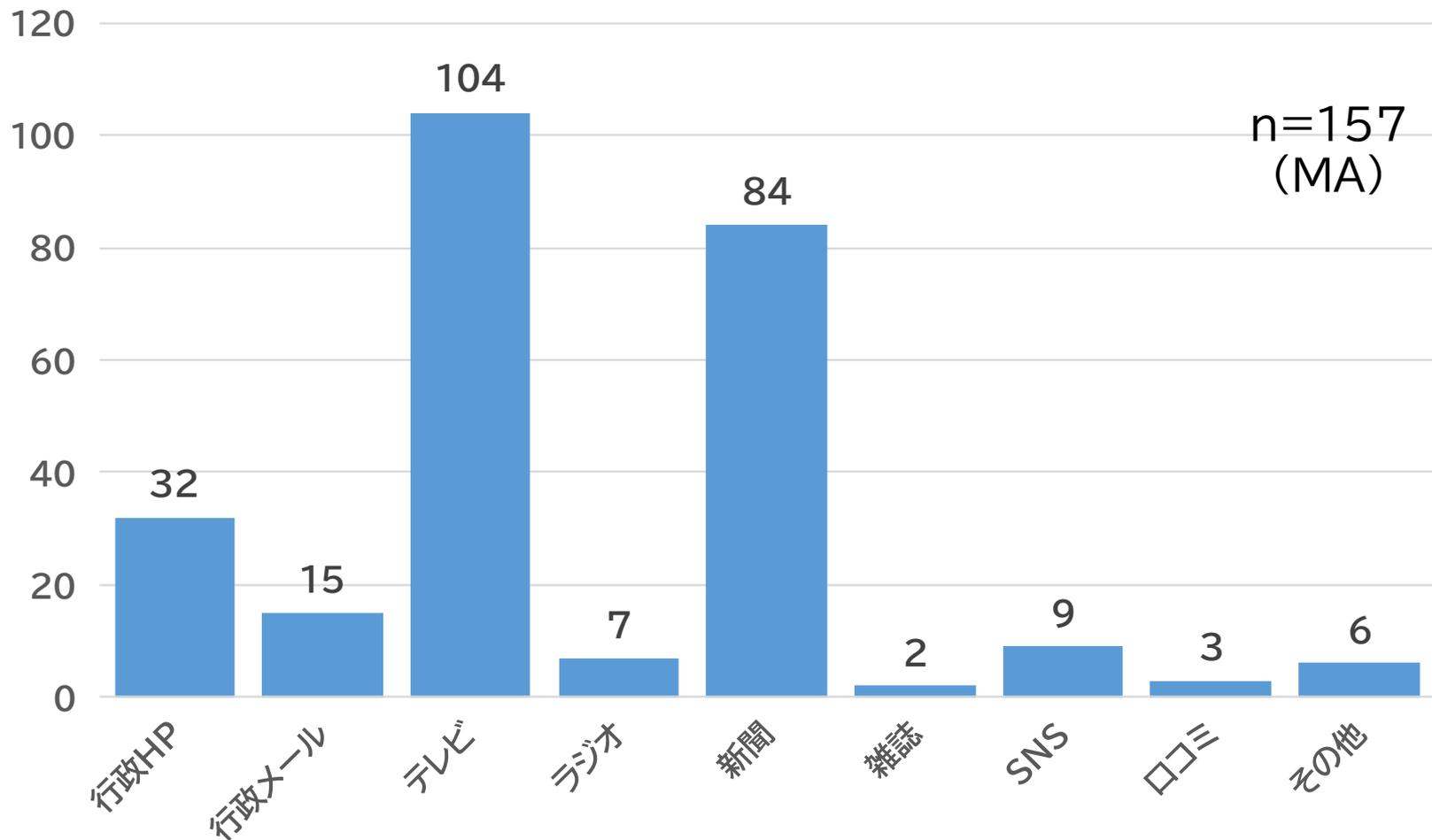
テレビと新聞の利用率が高い

コロナ禍の情報源（「その他」の内容）



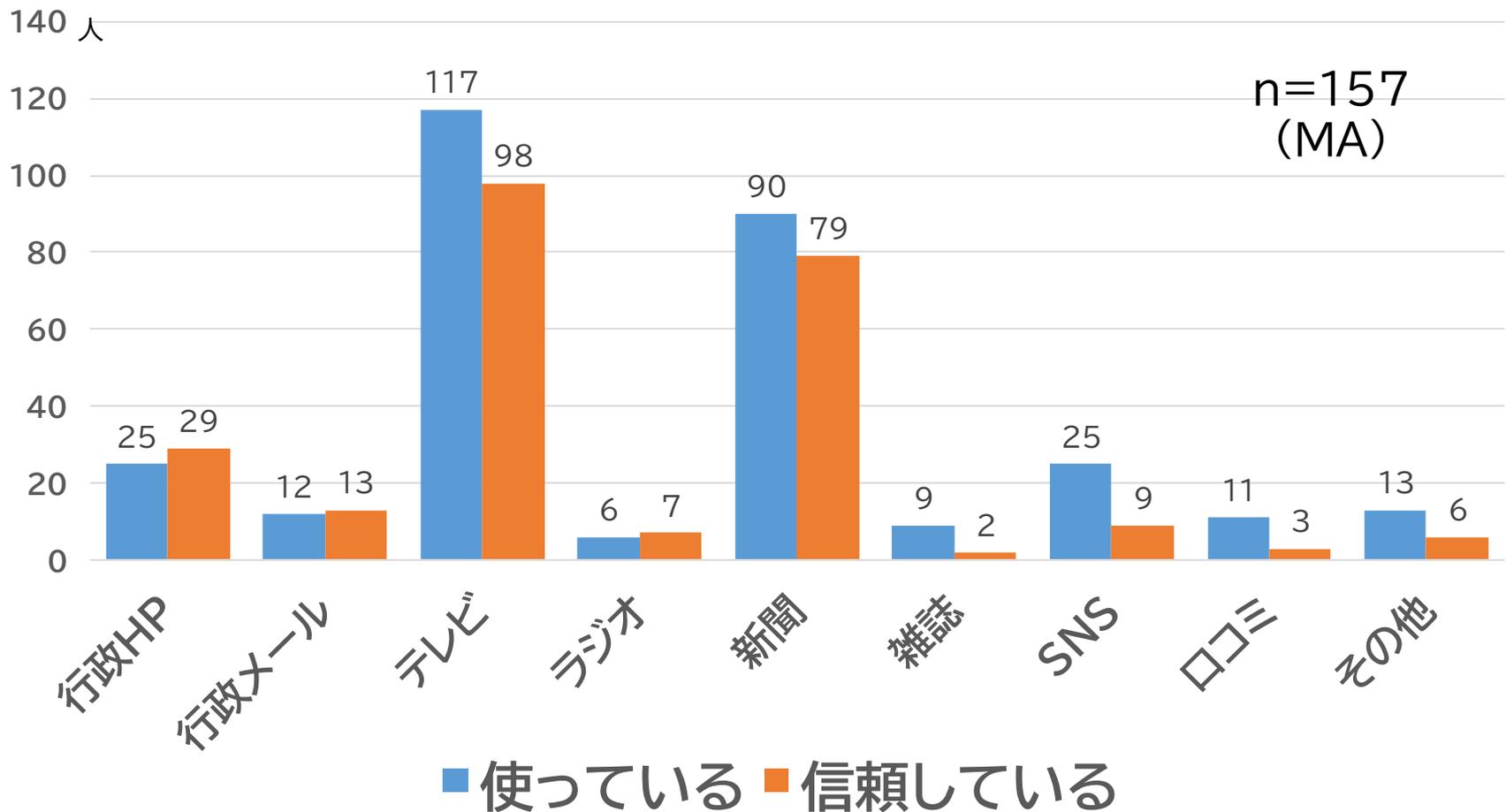
テレビと新聞の利用率が高い

コロナ禍において信頼している情報源



テレビと新聞の信頼度が高い

コロナ禍の情報源とその信頼度



SNSはギャップがある→ 使っていても信頼していない

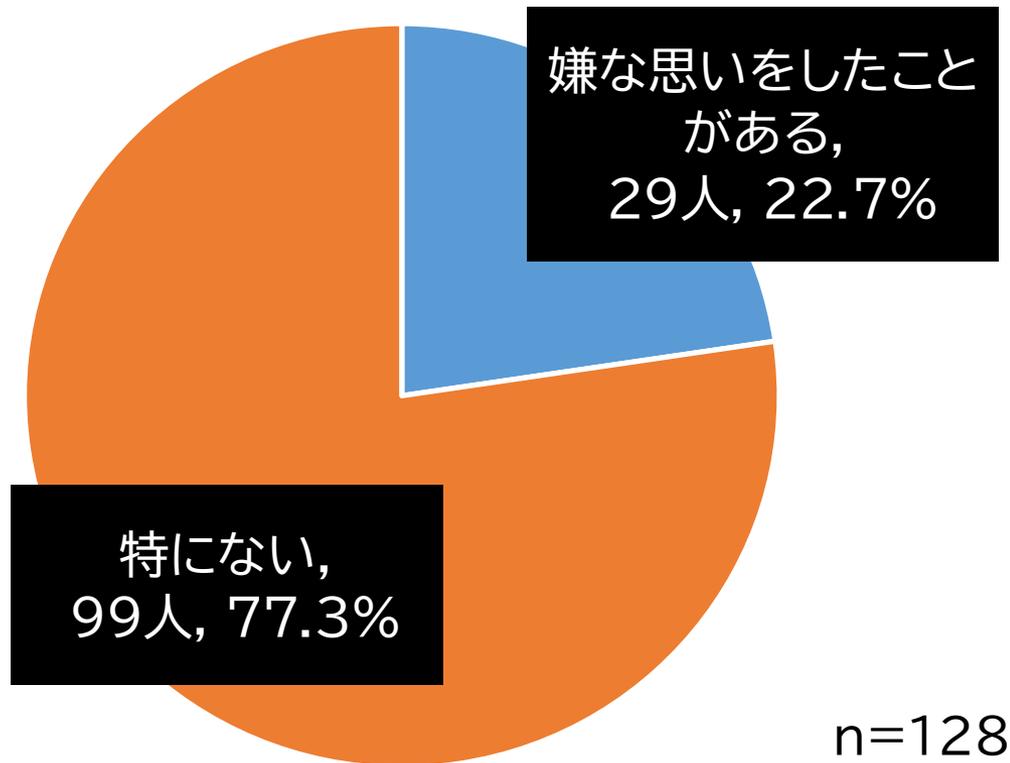
コロナ禍において役立った情報

自由記述

- 滋賀県のLINEによる県知事の会見ムービー
→ 手話通訳を介しての情報も得られるため
- 手話ニュース845による感染状況のニュース
- 行政のホームページを参考にしていました
- 生協に入っているため、買い物に関する情報は頼りになった
- 勤務先からの情報

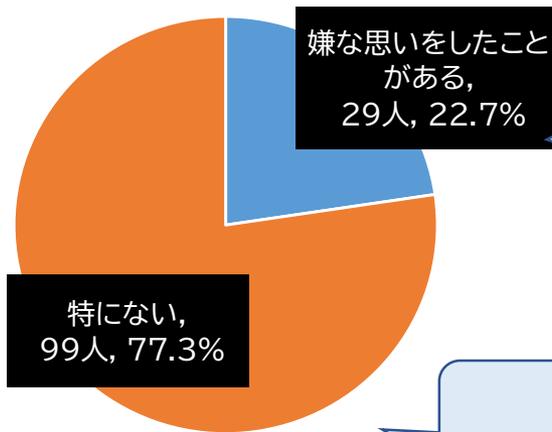
- インターネットができないので新聞とテレビだけが情報源
(70代以上、後天性)
- 聴覚障害者だけのLINEグループをつくってはどうか
(50代、先天性) → 健聴者とのコミュニケーションに問題あるから
- ZOOMに字幕を入れることができた
(30代、後天性)

コロナ禍で、聴覚障害があることによって 嫌な思いをしたことがあるか



およそ4人に1人は「ある」

コロナ禍で、聴覚障害があることによって嫌な思いをしたことがあるか



マスクを付けての会話は聞き取りずらく口元も読みとれない

マスクを外してとは言えない

口話ができない

外出しなくなった

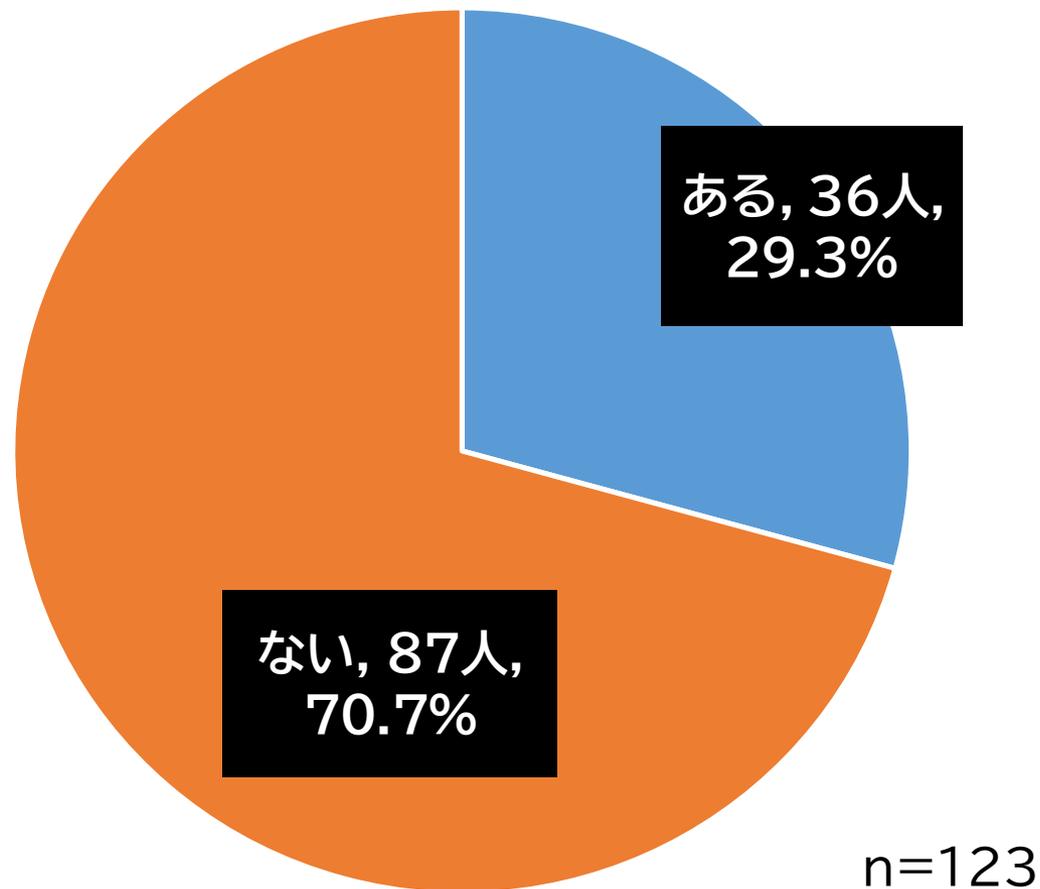
テレワークが困難

声が大きいと言われた

聞こえづらいので顔を近づけると嫌がられた

新しい言葉(コロナ、ロックダウン等)の意味がわからない、すぐに読み取れない

コロナ禍において改善したこと



およそ3人に1人は「ある」

コロナ禍において改善したこと

自由記述

- 規則正しい生活を送ること、ウォーキング
- 検温、除菌、消毒
- マスク、手洗い、うがい、こまめに換気
- 密を避ける
- なるべく家の中を清潔にするようになりました

- シンプルな暮らし、必要なモノ以外は購入しない
- 買い物に行かなくてよいように生協に加入した
- 買い物に要する時間の短縮、スーパーの混雑時に行かない
- 水や缶詰を備蓄するようになった
- 外食を減らす、イベントには行かない
- なるべく家で過ごしている、旅行のとりやめ
- 在宅勤務

- 万一罹患して病院に行く際には、手話通訳を派遣してほしい